経友会 ニュース

第28号

ご質問・お問合せ・メールのご登録は
大阪市立大学 経友会
（大阪市立大学 経済学部同窓会）
keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp
http://keiyukai.info

2015（平成27）年３月25日発行

五代友厚公の銅像建立　みんなの力で

五代友厚公の銅像の建立にむけて

経友会会長　塚本喜左衛門

小生は、五代友厚公を大いに尊敬する一人です。五代公の志は・・・

①日本とりわけ大阪に産業を創生し、経済の発展に大いに尽くした。

②社会の新しいシステムに着目し、信用制度（証券など）、貨幣（造幣局など）、教育制度の構築に尽力した。

③かれは幼少の時から世界地図で遊び、幕末には西洋で学び、明治以降には海外との関係に力を発揮した。

五代公は、そんな人材の教育に思いをはせ、大阪商業講習所を設立し大阪市立大学の基を築きました。五代公の大きな志を受け継ぎ、大阪市立大学の若人が、新産業の創造、海外への雄飛、社会への貢献に目を向けて、大いに活躍をしていただきたく思います。

幕末から明治初期にかけて日本の近代化に尽力し、大阪の産業経済の振興に大きな足跡を残した五代友厚公は、明治13年、大阪市立大学の源流となる大阪商業講習所を開かれました。こうした五代公の事績を顕彰し、古い歴史と学問の伝統を誇る本学の象徴として、合わせて年代を超えて同窓生が本学の誇りを共有し一体感を育むよすがとして五代公の銅像を建立しようという構想が昨年８月、商学部同窓会の商友会から提唱されました。同年10月に全学同窓会は募金でもってこの構想を実現する旨大学に申し入れを行い、現在は全学同窓会と大学との間で、設置場所等の検討をしています。また、全学同窓会はこの資金を募金で賄うため、同窓生に協力を呼びかけています。経友会の皆様におかれましては、ぜひこの趣旨をご理解いただきご協力下さるようよろしくお願いします。

平成27年３月

卒業生の皆様

大阪市立大学同窓会
会　長　児玉　隆夫

五代友厚銅像建立計画と募金協力のお願い

謹啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

大阪市立大学同窓会（通称、全学同窓会。全卒業生の力を結集し、母校及び在学生支援を強力に推進することを目的とし、平成24年11月設立。従来通り自主独立に活動を行なう各学部同窓会の会長が副会長に就任）は各学部同窓会と緊密に連携、一致協力し、就職支援・進路相談や大学「夢基金」への協力等母校と在学生支援を中心に活動を実施いたしております。

皆様方の日頃のご支援ご協力に対しまして、改めまして厚く御礼申し上げます。

さて、明治初期、現在の大阪商工会議所や大阪証券取引所の設立のほか、様々な産業を興し、当時衰退していた大阪を再び隆盛に導き、大阪のみならず日本経済の礎を築くに際して大きく貢献した五代友厚（1836年～1885年）は、母校大阪市立大学の淵源である大阪商業講習所創設（1880年）に尽力いたしました。

来年の平成28年２月12日には五代友厚の生誕180周年を迎えますので、これを記念し、大阪市立大学同窓会として銅像を建立し、末永く顕彰を行なう計画でございます。（なお、本年は大阪商業講習所創立より数え、135周年の記念の年でもあります）

つきましては趣旨をご理解賜り、銅像建立実現に向け卒業生の皆様方の募金ご協力をお願い申し上げる次第でございます。詳細につきましては別紙ご案内をご覧いただきたくお願い申し上げます。

以上何とぞよろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。　謹言

（このお願いは有恒会報送付で同封された全学同窓会の募金協力のお願いと同じものです。）

第１回　商経講座開講

法学部大教室

経友会が学生たちに提供する産業経済論講座「経友会講座」は、文系全学部に公開する講座として経済学部で平成17年度から始まりました。そして平成26年度からは、同様の講座を開講していた商学部同窓会の「商友会講座」と講座を統合して「商経講座」と名前を変え、一つの講座として再出発することになりました。今年度は経済学部・経友会が担当し、次年度は商学部・商友会が担当します。

例年、田中記念館の大会議室（ホール）を教室にしていましたが、同記念館がリニューアル工事にかかるため教室を法学部棟大教室（定員289名）に移して10月から開講しました。ホールと違って学生と講師の空間距離がぐんと狭まったことにより、心理的にも両者の距離が近くなって学生たちは熱心に受講しました。以下、講義の概略を紹介します。

１．「グローバル新時代に求められる人材とリーダーシップ」

近藤　浩章氏（昭和58年経済学部卒）

パナソニック㈱人材開発カンパニー　マーケティング研修総括

近藤氏は学生の進路について、大切なことはどの会社ではなく、どんな仕事をするかであって、そのキーワードはグローバルであると切り出された。企業は単に日本製品を輸出するのではなく外国の文化を理解しその国の事情に合った商品・サービスの提供が肝要で、そのためには現地の人と交流できる語学力と心を汲み取る心が大事と説明された。日本市場は人口減少により縮小傾向にあること、さらに日本経済の６重苦といわれる企業の立地環境の劣化から、日本企業の未来は、人口とGDPが増大し中間所得層の広がりが顕著な中国、インドなどBRICsやNEXT11といわれる国々に活路があると解説された。さらに、グローバルビジネスの企業人には、属性の異なる人たちを率いるリーダーシップが求められ、明確なビジョンとミッションを示して組織に溶け込む人間力をもって信頼関係を築くことが大切であると説明された。最後に学生たちに、自分という人間について他人に語れるよう自分を確立して欲しいと励まされた。

２．「為替が解ると世界が、そして日本が見える」―歴史的円高から導かれたアベノミクス円安への道筋を紐解けば―

花井　　健氏（昭和52年商学部卒）

前楽天㈱　取締役執行役員、元みずほコーポレート銀行常務執行役員アジア・中国総代表、株式会社　華健　代表取締役

花井氏は企業活動には必ず外国為替が関与するので、為替の知識が重要であると説かれた。学生に関心を持たせるため、パソコンの為替取引参入の画面を映し出し、自分の口座を使って学生にドル売買取引の実際を体験させた。そして個人が24時間いつでもどこでも取引に参入できることを教えられた。次に、為替とは国の相対的価値を示すもので、その変動により国全体の資産価値が変わることや、外国為替市場は世界最大のマーケットで１日４兆ドルの取引規模であること、レートに適正水準がなく自由に変動することなど為替市場の本質について理解させ、為替の需給相場や、為替相場を分析する方法として地政学、経済政策、ファンダメンタル、マーケットなどの要素があること、ディーラーはこれを分析して、短期、長期の相場を予想することを詳しく解説された。最後に学生たちに自分の価値観を持ち、自分のルーツを知り個人としての力や、海外から日本を見るグローバルな眼を養うことが大切と熱く語られた。

３．「グローバル経済における総合商社の機能と役割」

梶原　謙治氏（昭和46年商学部卒）

住友商事㈱　顧問　元同社専務執行役員　中国総代表

梶原氏は初めに住友商事㈱は海外66ヶ国に115、国内に24の拠点と、グループ会社799社を有する総合商社であること、またその広範な事業内容と世界的な地位について紹介された。また、総合商社の特色はグループのチームワークと総合力を発揮して仕事を創ることにあり、ビジネスの基盤はグループのネットワーク、知的資産、ノウハウの蓄積にあると事例を示して説明された。次に戦後の経済発展の局面ごとに総合商社が果たした役割を振り返り、常に時代の変化を先取りし、経済発展の局面に応じた働きが求められると話された。また今日の世界経済の動きはアジアなどの新興国の台頭と中間所得層の増大により地軸の変化が生じており、その中で新興国の電力・水道などインフラ整備需要への対応、資源の逼迫と地球環境保全問題への対応、再生可能エネルギーや日本の医療技術の活用、またわが国の資源エネルギーの安定確保等々日本商社の使命は大きいことを詳細に解説された。最後に学生たちに、夢とロマンを持ち続けて自分のやりたいことに前向きに取り組む気概を持って欲しいと語られた。

４．「財務分析から見る日本の企業評価」

戸奈　常光氏（昭和38年商学部卒、昭和40年大学院経営科修了）

戸奈公認会計士事務所代表

戸奈氏は初めに企業の規模別に適用される会計基準と監査について簡潔にふれられ、次に財務分析における４つの指標、すなわち健全性分析、収益性分析、成長性分析、資金性分析を示され、その財務諸表（決算書）は基本的には貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書であると解説された。次に貸借対照表、損益計算書の基本的な見方を示され、企業人はどの部門にあっても会計の基礎となる計数の見方を知ることが必須であって会計が解らずして経営はできないと強調された。次に企業の健全性は自己資本比率で解ると、有名企業を事例に分析された。同様に収益性分析や資金性分析、成長性分析について現在苦境にある有名大企業や好調な企業の決算書を題材にして、その見方を詳しく解説された後、上場企業における損益の特色、減損会計についても説明された。投資家が重視する１株当たり利益（PER）や１株あたりの純資産（BPS）という指標の説明をされたあと、最後に企業を見る最も重要な指標となるのは総資本利益率（ROA）と株主資本当期純利益率（ROE）であり、経営の最終目標はROAの極大化であると詳しく解説された。

５．「金融分野の情報システムの歴史的変遷」―IT活用の今とこれから―

足立　伸男氏（昭和52年商学部卒）

第一生命情報システム㈱　常勤監査役

足立氏は初めに第一生命に入社以来、一貫してシステム管理に携わり、現在勤務する会社の事業内容と、メーカー・銀行・IT産業等で構成するLS研究委員会はじめ数々の研究会・団体で活動されている内容を話された。また、業界第２位の地位にある第一生命の現況や、自分が勤めておられる会社の概要を紹介された。次に、IT産業の動向をパソコン誕生から今日までを時系列に説明され、その中で、従来企業側が圧倒的なデータを保有していた時代から21世紀は個人・消費者の方が大量の情報を入手して企業を比較して見る時代に移行したと語られた。また、今日、世界の企業の時価総額では上位５位までがIT関連産業が占めていること、IT産業のトレンドとしてBRICsやNEXT11などの新興国の諸国で進展すること、そして高度IT利用企業が経済を引っ張ることなどを解説された。そして今日、コンピュータシステムの安全管理、情報の保護といった問題への対応が大きな課題となっていて漸次法制度の整備が進んできたことや企業の内部統制について時間を割いて詳しく説明された。

６．「経営戦略を中心とした戦略的思考法」

深尾　愛二郎氏（昭和44年経済学部卒）

㈱ソシオ・コンサルタンツ代表取締役社長、元㈱アルプス技研　代表取締役社長

深尾氏は会社経営の基本は人（人材）にあるとして、自身の体験を通じて物の考え方を身につけることの大事さを中心に語られた。そして自身が社長を務められた会社は、正規雇用の技術者をハイテク産業の研究開発部門に派遣する人材派遣業であるが、優秀な社員も30代を過ぎると限界が生じる厳しい職場であると説明された。次に自社のことを題材にして、社長就任当時、経済不況にあって会社が苦境に立たされたこと、そこから経営危機を脱するまでの経緯を、原因・課題の分析と戦略の確立、目標の達成まで詳細に客観的な解説をされた。その後、会社は企業内チームリーダーによる自主的勉強会を奨励して技術・技能の向上に努めるなど、人材育成を重視する気風を生んでいることを紹介された。そして企業人に必要なリーダーシップのあり方として、社会の問題意識を見つけ幅広い関心を持って発想力・分析力・傾聴力を養うこと、そして批判的に眺める目を養うことが重要であると語られた。最後に、日本が海外市場で競争力を失っている原因として、海外人材の登用が遅れていることにより、海外市場に合わせたマーケティング力が弱いことを指摘された。

７．「繊維産業とその用途・技術の広がりについて」

西口　信行氏（昭和48年経済学部卒）

元旭化成せんい㈱　東京支社長　兼マーケティンググループ長

西口氏は初めに長年の経験を通して、企業人はまず経済・経営の理論を学び、実践で視点や着眼点を身に付けていく、これを繰り返すのが「知行合一」に適い自身の成長につながると語られた。旭化成㈱は2003年、効率化を図るため広範に亘る事業分野を化学系、住宅系、電子機器系、医学系の４部門に分社化したことや、繊維の産業構造は、合繊糸製造、織・編製造、染色加工、縫製加工、製品加工の生産工程に別れ、各工程が専門化、水平分業化され産地が形成されていることを概括された。また合繊事業はドルショックやオイルショックなど世界経済の厳しい局面をそのつど技術革新で乗り越えてきたことや、特に汎用製品で中国に負けた後は、高強力の糸や極細糸・長繊維を開発して衣料分野から非衣料分野へと転進して新しい用途を開発したことなどを詳細に説明され、さらに近年、高分子化学を駆使して「ナノ」レベルの微粒子を用い、最新の薬剤や検査材料等の研究開発を行っている状況を話された。終わりに学生たちに、発想の原点は現場にあり何事にも興味を持つことが大事で、在学中により多くのアイデア・情報の抽きだしを作るよう奨められた。

８．「大阪都心部の開発」―梅田の都市開発について―（阪神西梅田開発・うめきた開発）

中本　一志氏（平成11年経済学部卒）

阪急阪神ホールディングス㈱　グループ経営企画室事業政策部　兼　阪神電気鉄道㈱　新規事業推進室

中本氏は、自身が関わった大阪駅周辺都心部の二つの大きな開発計画をテーマに、初めに阪神が取り組んできた阪神西梅田開発について、旧国鉄貨物駅周辺地区が早くから再開発が課題になっていたところに阪神電鉄が地下化して土地を創出し、区画整理事業でポテンシャルを高めたと図面で示された。そして第１期計画として「人間交流都市」を理念とした「ハービスOSAKA」を建設し、このビルに街づくりの４つの機能、高級ホテル・ショッピング・オフィス・文化を持たせた考えを説明された。また第２期計画では第１期の理念を継承発展させ、「大人の雰囲気を持つ街」を創る核となる「ハービスENT」の建設について説明された。次にJR大阪駅北側の７haに及ぶうめきた開発「グランフロント」の特色は「ナレッジキャピタル」を中心に豊富な水景・緑空間をもつ多様な都市機能を備えた街で、今後は新しい産業・文化の知的創造や商品開発、コンベンション機能が高まると説明された。またこの地域の現状認識として、商業オフィスの参入価値が高く関西のリーディングエリアとなること、また開発の方向性として街づくりを通して梅田地区全体の価値を引き上げることが重要であると解説された。

９.「タイヤ事業環境と当面の課題」

市原　貞男氏（昭和55年経済学部卒）

東洋ゴム工業㈱　執行役員　ダイバーテック事業本部　副事業本部長

市原氏は、初めに自社がタイヤ以外にゴム材料と接着技術を基に自動車、鉄道車両部品製造等に多角化していること、またタイヤの構造や製造過程など基礎的な知識を動画で紹介された。次に国内の同業他社が戦略的に中国や新興国を対象に注力しているが、自社は北米を中心にしていると話された。次に世界のタイヤ需要は年平均４％の伸びがあり、2012年現在の需要は年間23～24億本で、19兆円の市場であること、また北米・欧州・中国が全体の70％を占めること、タイヤメーカー上位10社が総売上高の63％を占める寡占業界であることをグラフや数値で説明された。またグローバルな環境規制に関連して多くの国でタイヤの低燃費規制の導入が進んでいて、技術力の強いメーカーが生き残りをかけていると解説された。そして自社のビジネスについて、他社に比して非タイヤ分野の売上比率が高いことや、売上高構成比率で北米の割合が高いこと、戦略的に北米向けのライトトラック用タイヤに注力していること、また広範なゴム・ウレタン製品が社会と暮らしを支えていることなどを説明された。

10.「中国建築内装業の現状と人事管理制度のあり方」

原田　利明氏（昭和43年商学部卒）

㈳日中産業交流協会常務理事　元ASKプランニングセンター取締役　上海愛思考建築装飾工程有限公司顧問　日本ASK顧問

原田氏は、初めに上海で事務所、事業所など種々の建物の内装業を営む上海ASKが、2004年以降小さなカラオケ店から大規模ホテルに至るまで手がけるようになった今日までの成長の過程をその時々の政治・経済の時代背景を交えて時系列で解りやすく説明された。そして現金取引など現地の商慣行や中国式ビジネスのやり方を学んだこと、また苦境に直面したときに合弁方式が強みとなって機能したところが大であったことなどを苦労の歴史として語られた。

次に中国ビジネスで重要となる事項について、まず中国人と中国の商慣行を理解すること、また人事管理の判断基準を公平かつ明確にすること、人格を含めて技能等の評価制度や経営理念に基づく人事組織を確立すること、そして重要なのは中国人の人脈を築くことであるなどを列挙して説明された。終わりに、在学中美術部で活躍された氏は、本学の美術部と中国の大学との間で日中大学学生美術交流展を上海で３月開催する計画していることを説明され、学生たちに参加を呼びかけられた。

11.「堺市産業の特徴とその振興方策について」

澤田　佳知氏（昭和59年法学部卒）

堺市市長公室企画部長

澤田氏は、初めに堺市の地域を大別して、臨海部、都心市街地、内陸部、丘陵部とし、その産業立地の特徴を説明されたあと、堺市は製造品出荷額で全国８位、大阪府全体の1/5強を占める工業都市であると話された。また堺の代表的な企業や世界的に高いシェアーをもつ特異な企業や、大規模太陽光発電所・クリーンエネルギー産業・物流センター等先端産業が立地する臨海部について詳しく説明された。次に従業者規模別で中小企業が99％を占めていることや臨海部が製造品出荷額の約2/3を占めていることを数字で示され、堺が誇る伝統的産業を動画で紹介し、歴史的な背景なども解説された。

次に堺市ではこの10年間で企業立地促進条例が臨海部で大きな雇用増と経済波及効果を生み、税源の涵養に寄与していることを説明された。また中百舌鳥の産業振興センター等の産業支援施設等が中小企業の振興拠点となっている状況を説明された。今後の堺市の課題について、人口減少・超高齢社会のもとでは産業の振興⇒雇用の創出⇒定住人口の増⇒税源の確保の図式が重要であるとされ、新たな産業基盤の育成や、堺のポテンシャル、魅力などについて熱く語られた。

12.「大阪市の都市基盤行政」

芝野　弘之氏（昭和44年工学部卒、昭和46年大学院工学研究科修士修了）

元大阪市建設局副理事

芝野氏は、初めに大阪の都市基盤整備の歴史について、古代の治水事業や、豊臣・江戸時代の太閤下水と呼ばれる公共下水道敷設、水路の開削、橋の建設、河川の付け替えなどの大規模土木工事、その中で特に大和川の付け替え工事と淀川の開削工事について詳しく説明された。また明治期には大阪市が命運をかけた築港大桟橋と鉄道などを完成させ、大正から昭和初期には総合都市計画事業として今日の大阪市の骨格となる市電と道路、橋梁、公園等の建設を進めたこと、また御堂筋と地下鉄建設について有名な関一市長にもふれて説明された。そして戦災復興事業や大阪万博･花と緑の博覧会時には多大の経費を投入して都市基盤整備事業を拡充したこと、また市域の1/2が都市区画整理事業で整備されたことなどを説明された。

次に自身が関わった大阪駅周辺の歩道橋建設事業や、阪和線や関西線の連続立体交差・阪神福島梅田間の立体交差・環状線今宮駅新設事業などについて、その財源や事業調整など苦労話を交えて説明され、これらの都市基盤整備が後の都市開発や交通・環境改善に大きく寄与していることを解説された。

13.「ダイキンの事業戦略とグローバル展開」

岡野　幸義氏（昭和39年法学部卒）

ダイキン工業㈱　元代表取締役社長　現特別顧問

岡野氏は初めにダイキンは売上高の75％を海外で稼ぐグローバル企業であることを説明された。そして空調業界は、機械と電子系部品によるメカトロニクス商品で設置工事を伴う参入障壁の高い業界であることから、自社は空調機器に特化してビジネスを行ってきており、基本戦略は空調専業メーカーの強みを生かすことにあると強調された。また、技術戦略では機械・フッソ化学・電子を融合する企業として大量の電子技術者の育成、商品戦略ではダイキン発の技術商品の開発とシステム・メンテナンスのソリューションビジネスの展開、販売戦略では国内市場で培った基本戦略の海外展開、生産戦略では需要変動に即応できる体制と変種変量生産の導入、グローバル展開では競合他社との提携やM&Aの活用、など詳しく説明された。また中国での事業展開等を説明された後、経営の基本的な視点について、企業発展の基盤は人材であると強調され、グループ全体の人材育成の取り組みについても詳しく説明された。終わりに学生たちに海外留学などで世界に活躍できる素地を養うことが大切であると助言された。

第５期　キャリア形成ゼミ開講

夢洲コンテナターミナル㈱を見学

本年で５年目を迎えたキャリア形成ゼミは学部３回生を対象に、長尾 謙吉教授指導のもと、本学経済学部卒の先輩、東谷 茂樹氏、有田 正文氏を講師に迎えて昨年10月に開講し、本年１月には最後の授業として大阪港の夢洲コンテナターミナル㈱と佐川急便物流センターのSGリアルティ舞洲㈱を見学しました。ゼミナールで学生たちを熱心に指導されたお二人の講師にはお忙しい中、大変な気苦労があったものとお察ししますが、また一面若い学生たちを相手に講義、指導するのは楽しいひと時でもあったのではないかと思います。講師を務められたお二人にゼミを終えたご感想をいただきました。

「大阪市役所での勤務経験談とゼミ学生による行政課題の研究発表」

講　師　東谷　茂樹氏（昭和50年　経済学部卒）
関西高速鉄道㈱　常勤監査役、
元大阪市交通局職員（大阪運輸振興株式会社　常務取締役）

ゼミ教室（中央　東谷講師）

大阪市役所を退職して以来、やってきた仕事のことはすっかり忘れていましたが、この講師のお話をいただいてから、今まで38年間お世話になった仕事の振り返りができ、私にとって大変意義深いものとなりました。

ゼミの学生さんも素直で話しやすく、また少人数でしたのでコミュニケーションもとりやすかったと思います。ただ、私自身が学問的には不勉強なままに、実際の仕事をおこなってきたものですから、話を聞く学生さんにとっては、今一つ物足りないものがあったのではと反省しています。

今年の１月27日に、もう一人の講師である有田氏の肝いりで実施した大阪港めぐりや港湾関連会社への見学を通じて、もし自分が今の学生の年齢、立場であったなら、また違った仕事もおもしろかったかな、若ければもう一度挑戦してみたいなというような思いにかられました。

このゼミでの話や港湾見学によって、公務員という職業が多種多様で、興味があるな、やってみたいなという人が一人でも多く出てくれることを期待しています。そしてどのような仕事につくにせよ、仕事だけの人生ではないと思います。しかし、一日のうちで多くの時間を割かれるのも仕事です。また、職場の人間関係も大切です。学生の皆さんは、前途洋々です。自分のやりたいことを早く見つけて、素晴らしい人生を創っていってもらいたいと思います。

「大阪港の歴史と現状」

講　師　有田　正文氏（昭和50年　経済学部卒）
公益社団法人　大阪港振興協会　事務局長
元大阪市役所副理事、元公益財団法人救急医療事業団常務理事

ゼミ教室（右側奥　有田講師）

長年大阪港にかかわる仕事をしてきたことから、講義のテーマは「大阪港の歴史と現状」とし、私自身が職場で経験したことと併せて話しました。学生の皆さんへの課題は「日本の定期外航船社」、「大阪港の歴史」、「アセアン地域の経済発展」などとしました。

それらの課題について、その次の時間では、「日本郵船の設立」、「菱垣廻船・樽廻船」、「アセアン経済共同体」などについての発表がありました。発表の中身は私が予想していたレベル以上でした。インターネットで軽く調べて発表するのではと思っていたのですが、長尾教授のご指導もあり、日本郵船の社史などを読んで調べたようですし、アセアンについてはジェトロの資料などにもあたったようで、どの発表も合格点をあげてもいいように思いました。

また、今回は大阪港のコンテナターミナルや佐川急便の物流センターの見学を行うとともに、昔の港町の風情の残る天保山で立飲み（居酒屋）の経験もしました。

自分の学生時代を思い起こすと、講義はよく聴きましたが自分で調べるということが少なかったように思います。今は、昔と違い書籍もたくさんありますし、インターネットで簡単に貴重な資料を探し出すこともできます。長年実社会で経験の積んだ先輩の講義とその先輩の出される課題について報告をするという「キャリア形成ゼミ」は、学生たちにとってなかなかいい勉強の方法であるとあらためて感じました。

── シリーズ　経済学部の先生紹介 ──

このシリーズは先生方から自己紹介の形でご自身の研究テーマや講座などについてご寄稿いただき、ご自身の研究や日常の活動について語ってもらうことで卒業生と在学生たちにより良く知っていただくことを目的としています。今回は日本経済論を教えておられる滋野 由紀子先生にご寄稿をいただきました。これまでご紹介したのは男性の先生ばかりでしたが、今回初めて女性の先生にご登場をお願いしました。

滋野由紀子教授

経友会の皆様、こんにちは。経済学研究科・経済学部教員の滋野由紀子です。どうぞ、よろしくお願い致します。担当科目は「日本経済論」です。大学院では、「家計経済論」も担当しております。

プロフィール

生まれは東京ですが、西宮（兵庫県）で育ち、以後ずっと関西で暮らしています。高校生のときには建築家になって歴史に残るような建物を設計することを夢見ていました。しかし入試制度改革のいたずらもあり大阪大学経済学部に入学しました。

大学では、美術部に所属していました。当時、静物画や風景画の油絵を数点描いたものの、部室でトランプ等のゲームで盛り上がったことや学祭の模擬店で焼きそばを焼いたこと等、絵以外のことの方が思い出として残っています。夏には美術部らしく風光明媚な天橋立へ合宿に行きました。そのときも写生はそこそこで切り上げ、午前も午後も海水浴三昧で真っ黒になっていました。社会はバブル全盛期で学業の方もどこか浮ついていて、きちんと勉強し直さなければと大学院へと進学しました。大学院では、財政学の本間正明先生にご指導をしていただきました。指導教官ではない先生方や先輩方にも学問分野の垣根を越えて手厚いご指導をいただき、とても恵まれた環境だったと思います。その後、大阪市立大学に赴任し、早いもので、もうすぐ20年になろうとしています。近年は大阪市や大阪府の審議会等委員として、これまでの研究で得られたものを多少なりとも社会に還元できればとも思っております。

研究・教育

専門は日本経済論です。家計の行動に注目し、個人の意思決定という切り口で研究しています。例えば、労働供給の意思決定ですとか、家族形成、教育や貯蓄の意思決定などについて、経済学的な観点から明らかにすることを目指しています。具体的には、様々なアンケート調査やデータベースから得られる資料を統計学や計量経済学的手法を用いて解析し、日本経済と家計行動の相互関係を分析しています。

研究をはじめてから一貫して興味を持っているのは、日本社会の大きな課題となっている少子化問題です。女性の労働供給と少子化がどのようにつながっているのか、保育所の増設や育児休業制度の拡充などの政策を導入したときに、それが果たして少子化を緩和することにつながるのか、ということを個人個人のデータを用いて実証研究をしています。

ゼミでの指導で心がけていることは、社会の風潮に流されず、自らの頭で考え、それを積極的に発信する力をつけるということです。少子化の世の中では、現在の学生さんの世代は人口の“数の力”という点で、年長の世代に負けてしまいます。持続性、発展性のある社会にしていくためには、若年世代の意見が欠かせないでしょう。これから、ますます若年世代、一人一人のより強い発言力が求められると思っています。

会費納入をいただきありがとうございます

学部支援を事業の柱として設立された本会は、これまで会員の皆様がたのご協力があって活動を続けてまいりました。中でも卒業生を講師とする講座の提供は開始後10年を数えました。これからも経済学部の支援団体として諸事業を続けてまいりたいと考えています。ぜひ同期の会合や同窓の集まりの際には未入会の人たちに入会を働きかけてくださいますようお願いいたします。入会は会費納入をもって入会とします。

（会費払込口座）　ゆうちょ銀行

＊郵便局窓口に備え付けの払込取扱票をご利用ください。

口座記号　00920−4　　口座番号　58834

加入者名　大阪市立大学経友会

平成26年度会費納入のお願い

経友会の会計年度は６月１日から翌年５月31日までです。当年度未納の方には振込用紙を同封いたしましたので納入がたよろしくお願いします。なお、昭和62年以前に学部卒業の方、または大学院修了・中退の方には年度会費、終身会費のどちらかをお選びいただくことができますのでよろしくお願いします。

平成26年度会費　納入者一覧

平成27年３月11日現在〔敬称略〕

卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名
S. 28	若林　健介	S. 31	二宮　廸夫	S. 36	小森　征夫	S. 42	石川　雅志	S. 60	木下　克彦
S. 28	西岡　章好	S. 31	宇佐美秀昭	S. 37	宮澤　博臣	S. 42	小津　邦宏	H. 1	橘髙　稔治
S. 28	中家　隆造	S. 31	堀内　　巌	S. 37	坂　　弘志	S. 43	広岡　　尚	H. 1	名田　久幸
S. 28	山村　昭夫	S. 31	森島　陽一	S. 37	鈴木　康二	S. 47	竹下　義郎	H. 2	多田　征弘
S. 29	渡利　　陽	S. 32	石原　靖造	S. 37	日笠　健生	S. 47	刀禰美喜男	H. 4	宇仁　宏幸
S. 29	山口　暢一	S. 32	今川　　明	S. 37	佐藤　博之	S. 47	井上　昭三	H. 5	飯田　隆仁
S. 29	河﨑　　清	S. 33	植村　保司	S. 37	黒瀬　健二	S. 47	虫明　　優	H. 9	大美佐知子
S. 29	林　　昭	S. 34	相川　　満	S. 37	木村　邦彦	S. 47	川上　　實	H. 9	清水理絵子
S. 29	要　　明	S. 34	上田　武雄	S. 37	久保　郁夫	S. 48	清水　眞一	H. 10	李　　態妍
S. 30	阪口　英一	S. 34	花田　　恭	S. 38	加谷　壽一	S. 48	新庄　俊雄	H. 12	岩本　　登
S. 30	服部　栄治	S. 34	橋本　芳久	S. 39	川野　勝宏	S. 49	朝井　　保	H. 13	井代　順子
S. 30	安田　隆次	S. 34	藤井　充博	S. 39	山西　捷治	S. 49	居場　義明	H. 13	松尾元治郎
S. 30	皆川　宏子	S. 34	小川　　宏	S. 40	清水　俊明	S. 50	上田　　卓	H. 13	岩佐　雅史
S. 30	宇野　　實	S. 34	竹内　陽一	S. 40	木村　武志	S. 50	三浦　　繁	H. 21	井上　知子
S. 30	大野　光男	S. 34	岡田　皓三	S. 40	中岡　正憲	S. 50	土井　一久	H. 23	木田　貴之
S. 31	西村　　忍	S. 35	清住　紳三	S. 40	池田　　猛	S. 55	岡本　年行	H. 25	木元　逸朗
S. 31	長谷川匡四	S. 35	千艸　晴夫	S. 41	齋藤晃一郎	S. 55	宮永　昭弘	H. 25	森尾　　淳
S. 31	加納　裕司	S. 35	吉川　正男	S. 41	関　　克彦	S. 56	三木田裕彦	H. 25	原田　信子
S. 31	太田　　勇	S. 36	谷川　宗隆	S. 41	吉村　正勝	S. 57	岡森　　啓		

経済学部教員

岩波　由香里、浦西　秀司、海老塚　明、岡澤　亮介、小川　亮、大島　真理夫、北原　稔、久保　彰宏、坂上　茂樹、滋野　由紀子、柴田　淳、C. ウェザーズ、杉田　菜穂、辻　賢二、長尾　謙吉、中川　満、中嶋　哲也、中島　義裕、中村　健吾、中村　英樹、朴　一、橋本　文彦、福原　宏幸、松本　淳、森　誠、森脇　祥太、若森　みどり、脇村　孝平

終身会員一覧

平成27年３月11日現在〔敬称略〕

卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名
S. 28	建部　好治	S. 34	斎藤　三朗	S. 37	工藤　治夫	S. 42	伯井　真人	S. 49	滝川　実
S. 28	松本　昌美	S. 34	髙瀬　昌弥	S. 37	八代田次郎	S. 42	吉田　通弘	S. 49	和田　裕
S. 28	久我　一郎	S. 34	増尾　穣	S. 37	陸野　桂	S. 42	角野　浩	S. 49	加藤喜久雄
S. 28	上羽　宏	S. 34	森川　継雄	S. 37	富内　宏昭	S. 43	高田　誠一	S. 49	大西　悦夫
S. 28	福持　一昭	S. 34	濱口亀三郎	S. 37	南部　昌弘	S. 43	天野　元良	S. 49	和田　龍三
S. 28	中山　昌彦	S. 34	西田　博	S. 37	坂本　健郎	S. 43	大杉　克彦	S. 49	居場　義明
S. 28	片山　政造	S. 34	依田　丞市	S. 37	柳田　健	S. 43	辻本　敏彦	S. 50	上田　卓
S. 29	佐久間舜二	S. 34	南條　耀	S. 37	菅野　吉昭	S. 43	能瀬　巌	S. 50	有田　正文
S. 29	渡利　陽	S. 34	林　健二	S. 38	上村　恭一	S. 43	面田　真一	S. 50	木下　順
S. 29	石井　寛治	S. 34	四方　昭男	S. 38	山幡　一雄	S. 43	河崎亜洲夫	S. 50	牧野　幸雄
S. 29	土倉　毅	S. 34	中嶋　勇作	S. 38	熊谷隆一郎	S. 43	奥田　重隆	S. 50	山内　晃一
S. 29	大西　義夫	S. 34	峯　博	S. 38	吹田　正	S. 43	石髙　康治	S. 50	松浦　康裕
S. 29	河野　延雄	S. 34	高橋　宏	S. 38	中野　眞雅	S. 43	木野比佐司	S. 50	前川　昌宏
S. 29	芦田　信明	S. 34	福井　昭彦	S. 38	岡田　紀一	S. 43	安藤　清	S. 50	倉田　信彦
S. 29	市口精一郎	S. 34	浦田　博	S. 38	原田　哲郎	S. 43	梶原　健司	S. 50	藤井　一彦
S. 29	土井　魏	S. 34	中村　恭三	S. 38	谷辺　光正	S. 43	小林　詔三	S. 50	橋本　純
S. 29	家木　裕隆	S. 35	板垣　望	S. 38	福西　淳	S. 43	谷垣　弘	S. 50	泉原　正博
S. 29	梶谷三千子	S. 35	吉川　八郎	S. 38	山口　幸夫	S. 43	辻　幹彦	S. 50	溝谷　仁司
S. 29	金岡　徹	S. 35	福井　成康	S. 38	浜田　禎彦	S. 43	福家　学	S. 51	宮本　岩男
S. 29	倉田　喜弘	S. 35	林　昌夫	S. 38	北村　勤	S. 44	惣宇利紀男	S. 51	深山　一清
S. 29	池田　満邦	S. 35	竹葉　健	S. 38	長畑　毅	S. 44	大西　史朗	S. 51	山本　晃子
S. 29	森本　泰三	S. 35	中西　徹雄	S. 39	藤田　章	S. 44	寺田　栄造	S. 52	神藤　敏文
S. 30	木村　進	S. 35	八田　浩志	S. 39	南森　康彦	S. 44	溝川　茂久	S. 52	當麻　克哉
S. 30	横山　修一	S. 35	岡井　英己	S. 39	豊島　英俊	S. 44	定本　安正	S. 52	上田　俊次
S. 30	藤尾　隆	S. 35	芦谷　正雄	S. 39	藤原　史和	S. 44	参鍋　洋三	S. 52	桜井　徹
S. 30	高木　健次	S. 35	福山　亮治	S. 39	岩槻　芳昭	S. 44	杉本　久	S. 52	藤沢　肇
S. 30	龍口　篤夫	S. 35	森田　文治	S. 39	戸田　浩	S. 44	小寺　輝久	S. 52	福田　利夫
S. 30	八木　史朗	S. 35	殿護　隆司	S. 39	加藤　紘一	S. 44	加藤　浩史	S. 53	伏田　昌義
S. 30	福田　哲治	S. 35	福岡　孝一	S. 39	森　武義	S. 44	牧野　忠廣	S. 54	炭山　明弘
S. 30	岡田喜三郎	S. 35	古家　章	S. 40	島　征一郎	S. 44	髙田　紘二	S. 54	羽鳥　敬彦
S. 30	木村　陽吉	S. 35	南　直昌	S. 40	大井　英司	S. 44	森定　学	S. 54	二口　隆洋
S. 31	扇　貞行	S. 36	武田　信照	S. 40	山田　義信	S. 44	古川　弘成	S. 54	浮田　泰昌
S. 31	塚本　弘行	S. 36	堤　憲幹	S. 40	宮崎　憲司	S. 44	二森　隆之	S. 54	植田　健三
S. 31	荒岡　由郎	S. 36	野口征二郎	S. 40	久保　昭	S. 44	堀　裕雄	S. 55	稲田　隆
S. 31	石川　健夫	S. 36	井上　家昌	S. 40	藤賀　隆文	S. 44	土井　純三	S. 55	中村　朗
S. 31	山崎英太郎	S. 36	村山　慶三	S. 40	福永　洋	S. 45	梅原　健一	S. 55	宮本　守
S. 31	吉中　尚志	S. 36	寺田　輝男	S. 40	阪井　輝昭	S. 45	新阜　利治	S. 55	中山　昭彦
S. 31	古賀　仁	S. 36	川原　勝郎	S. 40	蔵岡　一彦	S. 45	西田　衛	S. 55	北田　道男
S. 32	藤井　勲	S. 36	西田芳次郎	S. 40	小西　一彦	S. 45	井藤　光明	S. 56	岩田眞一郎
S. 32	木村　泰藏	S. 36	小野　重雄	S. 40	井奥　博之	S. 45	塚田　博人	S. 57	大野　卓哉
S. 32	河　明	S. 36	澤田　稔	S. 40	甘田　外成	S. 46	塚本喜左衛門	S. 57	伊藤　哲元
S. 32	丸目　安忠	S. 36	弘田　桂三	S. 40	広瀬　完治	S. 46	南　富雄	S. 57	藤薮　裕士
S. 32	西　幹雄	S. 36	丹羽登志雄	S. 40	大和　猛	S. 46	西田　二郎	S. 57	飼馬　誠
S. 32	久保　勇	S. 36	南方　弘	S. 40	柴本　博司	S. 46	田仲勇一郎	S. 57	内村　朋弘
S. 32	花岡　實	S. 36	中村　和博	S. 40	文谷　和史	S. 46	津戸　正広	S. 57	広瀬　憲三
S. 32	川勝　弘一	S. 36	中井　敏男	S. 40	中尾　貴司	S. 46	松本　有一	S. 59	森下　和彦
S. 32	星出　政夫	S. 36	黒田　牧夫	S. 40	山下　秀夫	S. 46	加藤　克俊	H. 1	名田　久幸
S. 33	木村　甲辰	S. 36	田所　豊	S. 41	食満　厚造	S. 47	中村　忠夫	H. 6	中野　亘子
S. 33	久保多信夫	S. 36	田中陽一郎	S. 41	山田紘一郎	S. 47	前田　克己	H. 8	田中　健二
S. 33	嶋田　繁	S. 37	野崎　充亮	S. 41	大平　恒己	S. 47	冨田　博重	H. 9	竹内淳一郎
S. 33	豊泉　正次	S. 37	大杉　恒	S. 41	福島　忠信	S. 47	松尾　正典	H. 9	高田　雄司
S. 33	三上　陞	S. 37	山根　泰輔	S. 41	室　元明	S. 48	大谷　和	H. 10	小汐　明子
S. 33	上村　正昭	S. 37	金井　邦夫	S. 42	東　昭司	S. 48	三歩一雄次	H. 10	島村　幸光
S. 33	大谷　整一	S. 37	外村　修一	S. 42	福島　由堯	S. 48	藤井　常雄	H. 12	山本　恒昭
S. 33	柏木　敏治	S. 37	坂脇　徳豊	S. 42	中川　睦彦	S. 48	岡村　美孝	H. 13	多田　敏明
S. 33	梶井　靖之	S. 37	村井　節男	S. 42	出原　康雄	S. 48	篠原　正人	H. 14	睦谷　晃弘
S. 33	井上　昇	S. 37	岸本雄次郎	S. 42	藤田　博之	S. 48	西口　信行	H. 16	渡辺　光男
S. 34	宮田　哲弘	S. 37	藤田　吉之	S. 42	渡邊　尚年	S. 48	池野　隆	H. 23	山分　信幸
S. 34	髙田　直彦	S. 37	岡本　好右	S. 42	津本　忠美	S. 49	山本　泰徳	H. 23	古家　保男
S. 34	西尾　雅一	S. 37	寺田　正博	S. 42	松田　芳昭	S. 49	喜多　直記		

退任教員

大川　勉、藤田　整、星川　順一